

富山県新記録の植物 20

太田 道人

富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

Additional records to the flora of Toyama Prefecture, 20

Michihito Ohta

Toyama Science Museum, 1-8-31, Nishinakano, Toyama 939-8084, Japan

カリガネソウ、ヤマカライヌワラビ、ヘビヤマイヌワラビを富山県初記録の植物として報告する。証拠標本は富山市科学博物館植物標本庫 (TOYA) に収蔵されている。学名は米倉・梶田 (2003-) および岩槻 (1992) によった。

富山県南砺市桜ヶ池 堰堤下の右岸
2008年6月28日 石澤岩央採集
TOYA 72666

カラクサイヌワラビとヤマイヌワラビとの自然雑種 (Iwatsuki et al, 1995) とされる夏緑生シダ。外見はヤマイヌワラビに似るが、小羽片の前側の耳片が大きく、羽軸と重なる点はカラクサイヌワラビの特長を示す。包膜は線形～長楕円形のものでほとんどであるが、ヤマイヌワラビに見られる背中合わせのものと先がかぎ形に曲がるものが若干混じる。また、羽軸と小羽軸の分岐点表面に刺状の突起があり、このことはカラクサイヌワラビで時に見られる性質である。これらの形質から本雑種と同定した。

カリガネソウ (クマツヅラ科)

Caryopteris divaricata Maxim.

富山県宇奈月町黒部峡谷

1927年6月28日 菊池勘左エ門採集

TOYA 71548

生育地は、サクラ属sp.、イソノキ、アズキナシからなる疎林内で、林床に生育しているシダは、ヘビノネゴザ、ヤマイヌワラビ、イヌガンソク、ゼンマイなどで、カラクサイヌワラビは共存していなかった。本雑種の生育株数は数株であった。

国内では北海道から九州に生育し (佐竹ほか, 1981)、近県では新潟県 (石沢, 1980)、長野県 (長野県植物誌編纂会, 1997)、石川県 (石川の植物の会, 1983)、福井県 (渡辺, 2003) に記録があるが、富山県では大田ほか (1983)、太田 (2003)、立山連峰の自然を守る会 (2002) などには生育記録がなかった。

今回、鳴橋直弘氏から2007年に寄贈された標本の中に本種が含まれていたため証拠標本として記録する。しかし、採集地が黒部峡谷のどこであるのかを示す記述がないため、現存を確認することは不可能である。今後、関連地域で植物調査が行われる際には、本種の生育の可能性を意識しておく必要がある。

ヘビヤマイヌワラビ (イワデンダ科)

Athyrium x mentiense Sa. Kurata

富山県南砺市桜ヶ池 堰堤下の右岸

2008年6月28日 石澤岩央採集

TOYA 72664, 72665

ヤマカライヌワラビ (イワデンダ科)

Athyrium clivicola Tagawa x *A. vidalii* (Franch. et Sav.) Nakai

ヘビノネゴザとヤマイヌワラビとの自然雑種 (岩槻他, 1992, Iwatsuki et al, 1995) とされている夏緑生シダ。外見はヤマイヌワラビに似るが、

葉柄下部の鱗片は線形で中央部が茶色、周縁が淡褐色と、ヘビノネゴザの特長が顕著に出る。小羽片はやや鋭頭で基部は無柄、胞子囊群は中肋と辺縁の中間につき、包膜は長楕円形、鉤形、馬蹄形であることなどから本種と同定した。

生育環境及び生育状況は前雑種のものと同じである。

謝辞

貴重な標本を寄贈してくださった前富山大学理学部教授の鳴橋直弘氏、詳細な生態・形態観察記録をつけて標本を寄贈してくださった富山市科学博物館友の会の石澤岩央氏に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 石川の植物の会(編). 1983. 石川県植物誌 (里見信生監修). 石川県.
石沢進(編). 1980. 新潟県植物分布図集第1集 (池上義信監修). 植物同好じねんじょ会.
Kunio Iwatsuki, Takashi Yamazaki, David E Boufford and Hideaki Ohba. 1995.

Flora of Japan.Vol.1.Pteridophyta and Gymnospermae.Kodansha Ltd. Tokyo.

岩槻邦男(編). 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社.
長野県植物誌編纂会(編). 1997. 長野県植物誌 (清水建美監修). 信濃毎日新聞社.

太田道人. 2002. 富山市科学文化センター収蔵資料目録15 維管束植物シダ.富山市科学文化センター.

太田道人. 2003. 富山市科学文化センター収蔵資料目録16 被子植物合弁花類.富山市科学文化センター.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫. 1981. 日本の野生植物草本3合弁花類.平凡社.

立山連峰の自然を守る会. 2002. 奥黒部自然総合学術調査報告書 (和田直也監修). 読売新聞北陸支社.

渡辺定路. 2003. 改訂増補福井県植物誌. 福井新聞社.

米倉浩司・梶田忠. 2003-. 「BG Plants 和名一学名インデックス」(Ylist), http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2009年1月16日).

魚津市角川でコモチカワツボが出現

布村 昇

富山市科学博物館 〒939-8084 富山県富山市西中野町1-8-31

Occurrence of *Potamopyrgus antipodarum* from Kadokawa River, Uozu-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

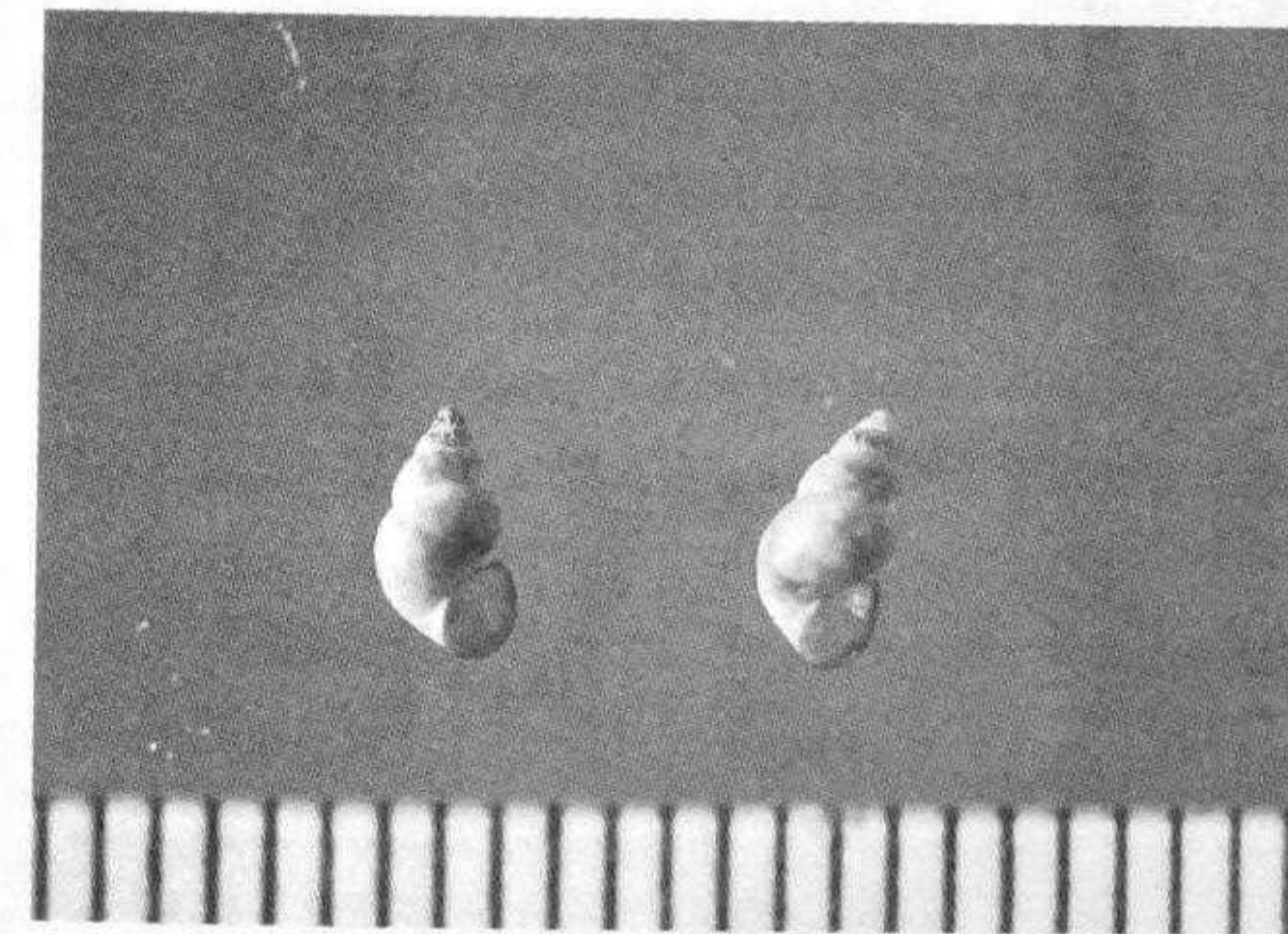
Potamopyrgus antipodarum was collected from Kadokawa-River, Uozushi, Toyama. Occurrence of the speices was relatively limited.

本会で魚津市の西部を流れる角川の底生無脊椎動物を報告したが(布村, 2008) そのうちの「カワニナ」と報告したサンプルの一部を再調査した結果、若いカワニナと思っていたものはコモチカワツボ*Potamopyrgus antipodarum*であった。

2007年の本会の採集品を全て再度調査したところ、下記の標本が、本種であることを確認した。

確認標本：魚津市湯上月見橋、10月18日、2頭、布村昇；出橋下、7月7日、3頭、布村昇；魚津市観音堂富里団地、10月18日、8頭

なお、コモチカワツボには*Potamopyrgus jenkinsi*という学名が用いられることもある。本種はニュージーランド原産の小さな巻貝で、カワニナの若い個体と類似している。県内では従来知られていなかったと思われる。



生態

北半球の亜寒帯から温帯域にかけて、世界的に分布域を拡大している。輸入魚などによってもたらされたものと考えられている。雌雄同体で無性生殖でふえることと、乾燥に非常に強く、水が無くてもある程度生存できるため(島田・浦部 2003)、急速に増殖し、カワニナなどの生息環境・餌の問題で競合し、もしかしたら、カワニナを餌としているゲンジボタルなどホタル類への成長阻害も考えられるかも知れない。

再調査のきっかけはコモチカワツボが全国的に広がっていてカワニナの幼若個体と似ているということを教示いただいた向上高等学校の園原哲司氏である。記して御礼申し上げます。

引用文献

- 布村昇. 2008. 角川の底生無脊椎動物 (昆虫を除く)。富山県生物学会誌.
日本産淡水貝類図鑑 琵琶湖淀川の淡水貝類ピーシーズ.
島田久美子・浦部美佐子. 2003. 腹足類コモチカワツボと在来種カワニナ類の比較生態日本貝類学会誌Venus 62(1-2)pp. 39-53.